



歴史と文化の街「浜坂」・北前船の寄港地「諸寄」

もろよせ

unesco 浜坂・諸寄コース

Global Geopark

浜坂・諸寄は浜辺の集落です。古くから北前船の寄港地であったことから商人の町として栄え、数多くの文化人を輩出しました。城山園地から見下ろす波穏やかな諸寄港の光景から「北前船」の寄港地として、諸寄砥石や各地からの産物が積み降ろしされた当時の活気が偲ばれます。

浜坂や諸寄は、現在漁業と温泉の街となっています。浜坂港は「松葉ガニ」「ホタルイカ」の漁獲では日本有数の水揚げを誇っています。浜坂ちくわや魚介類の干物も特産品となっています。新温泉町山陰海岸ジオパーク館は山陰海岸ジオパークの拠点施設で、ジオパーク全体の岩石・地質の情報が集約されています。



山陰海岸ジオパーク散策モデルコース
(山陰海岸国立公園)

初版: 2011.10.28
最終更新日: 2022.3.31

諸寄コース

スタート ※時間は徒歩

5分 ↓ 約250m

① 諸寄基幹集落センター
10分 ↓ 約500m

② 漁村の街並み
10分 ↓ 約500m

③ 日和山の眺望
30分 ↓ 約1.5km

④ 塩谷の海食洞
30分 ↓ 約1.5km

⑤ 城山園地(諸寄の眺望)
25分 ↓ 約1.25km

JR諸寄駅

総移動時間1時間50分
全行程約5.5km

浜坂コース

スタート ※時間は徒歩

25分 ↓ 約1.25km

① 新温泉町山陰海岸ジオパーク館
30分 ↓ 約1.5km

② 矢城ヶ鼻灯台
25分 ↓ 約1.25km

③ 但馬海岸遊覧船
30分 ↓ 約1.5km

④ 旧市街地(近世の街並み)
60分 ↓ 20分 ↓

90分 ↓ JR浜坂駅

総移動時間4時間20分 総移動時間2時間10分
全行程約6.5km

諸寄ショートコース

スタート ※時間は徒歩

5分 ↓ 約250m

① 諸寄基幹集落センター
10分 ↓ 約500m

② 漁村の街並み
10分 ↓ 約500m

③ 日和山の眺望
30分 ↓ 約1.5km

JR諸寄駅

総移動時間55分
全行程約2.75km

浜坂ショートコース

スタート ※時間は徒歩

25分 ↓ 約1.25km

① 山陰海岸ジオパーク館
20分 ↓ 約1km

④ 旧市街地(近世の街並み)
20分 ↓ 約1km

JR浜坂駅

総移動時間1時間5分
全行程約2.75km

**270度の
大パノラマ**

② 矢城ヶ鼻灯台
やじょうがはな

③ 但馬海岸遊覧船

① 新温泉町山陰海岸ジオパーク館
オススメ

④ 旧市街地(近世の街並み)

⑤ 城山園地(諸寄の眺望)
しろやまえんち もろよせ

③ 日和山の眺望
ひよりやま

④ 塩谷の海食洞
しおだに

② 漁村の街並み

① 諸寄基幹集落センター

クイズその1
浜坂は地名のとおり、街の中に坂がたくさんあります。なぜでしょうか？(答えは裏面へ)

クイズその2
諸寄はなぜ北前船の寄港地になったのでしょうか？(答えは裏面へ)

凡例

- トイレ
- 駐車場
- 食事
- 説明看板
- 道順
- 通行止
- 造船所
- 石碑
- 崖転落注意
- 田
- 畑・牧草地
- 交通安全確認
- 浜坂コース
- 諸寄コース
- 健脚向け登山コース
- 浜坂ショートコース
- 諸寄ショートコース
- 両コース接続路

みどころいっぱい浜坂海岸&諸寄海岸

●浜坂コース

①新温泉町山陰海岸ジオパーク館



掘抜式の港・浜坂港と浜坂県民サンビーチの一角にある建物で、山陰海岸ジオパークの中心施設のひとつです。館内には、山陰海岸ジオパーク全体が分かる資料や岩石・化石等を展示しています。また、岩石と水をテーマにした様々な実験ができるジオ体験コーナーがあります。

(問)0796-82-5222(休館日:毎週火曜日)

②矢城ヶ鼻灯台〜270度の大パノラマ〜



矢城ヶ鼻先端、標高約50mにある灯台からの眺めは絶景です。ここからは、西の千賊(せんぞく)断崖(高さ180m)や陸上(くがみ)岬、羽尾岬などの鳥取県までつづく、荒波で侵食された荒々しい岸壁が見られます。東は浜坂サンビーチや三尾大島など名勝・天然記念物「但馬御火浦(たじまみほのうら)」の海岸が一望できます。

③但馬海岸遊覧船



国指定の名勝で天然記念物でもある「但馬御火浦(たじまみほのうら)」の雄大な自然と日本海形成に関わる地質や地形など美しい海岸線や海底が楽しめます。日本屈指ともいわれる壮麗な海岸美、大自然が創り出した神秘的な傑作と大海原をゆったりとした気分でご覧ください。

(問)但馬海岸遊覧船 TEL.0796-82-1904
※運行休止中

④旧市街地(近世の街並み)



浜坂の市街地は岸田川河口の砂州の上にできた町です。近世には酒造や縫い針生産などで栄え、但馬の中でも比較的早く都市化が進んできました。あじわら川小径沿いには、旧家や古い石垣などが残っています。付近には清水の湧く井戸の跡、揚げ橋、水神様、船着き場などが随所に残り、当時の生活を偲ぶことができます。江戸時代に活躍した俳人森周一郎(森梅園)・森近三郎(森藍尾)を輩出した「七釜屋」は町の文化財「浜坂先人記念館以命亭」として保存されています。

番外:観音山からの眺望



浜坂市街地東部の標高245mの山。山頂に737年(天平9年)行基によって開かれたと伝わる天台宗の寺院「観音山相応峰寺」の円通殿(本殿)があります。ここには平安時代前期の造立とされる国指定重要文化財「十一面観音立像」が安置されていて、地域の心のよりどころとなってきました。山頂からは浜坂の街や矢城ヶ鼻、東の但馬御火浦を見渡すことができます。

●諸寄コース

①諸寄基幹集落センター



諸寄基幹集落センター(旧諸寄小学校跡)には、諸寄の生んだ歌人・前田純孝(まえだすみとか)、社会教育者・篠原無然(しのはらむげん)、画家・谷角日沙春(たにかどひさはる)、藤田威(ふじたたいし)などの資料が展示、保管されています。

(問)0796-82-5233(休館日:毎週水曜日)

②漁村の街並み



日本海航路が盛んであったころ、旧諸寄港は日和山で西風をさえぎられる絶好の風待ち港でした。付近には、港町の家並みが、当時の雰囲気を残しています。町を見下ろす高台の為世神社(いよながじんじゃ)には海の神である塩土翁命(しおつちのおきなのみこと)が祀られており、安全を願い寄進された絵馬などがあります。境内の玉垣には「陸奥国」「越後国」「下野国」などの旧国名と寄進した船主の名が刻まれています。

③日和山〜北前船の係留跡とマグマの通り道岩脈〜



日和山の灯台の下に広がる岩場には、かつて北前船を係留した棒杭の穴がいくつも残っています。ここには日本海が開き始めた頃に噴出した火山岩と、その中にマグマが貫入して冷えて固まった「岩脈」が見られます。この岩脈は対岸のくずれの湾に続いています。棒杭の穴を探してみましょう。

④塩谷の海食洞



塩谷では板状節理が発達した火山岩が波の力で侵食され、洞窟になっています。入口より内部の方が広がっています。内部は大人数人が入ることができますが、自然のままの洞窟ですので頭上からの落石に注意が必要です。(※安全が確保できないときは入らないようにしましょう)

⑤城山園地(諸寄の眺望)



芦屋坂から城山園地に向かう、つづら折りの道を登ると展望のよい城山園地に着きます。ここから見る天然の良港諸寄湾と、湾外の西側にある海金剛や朝夕の光が織りなす景観は絶景です。春の桜、冬の雪景色など、四季が楽しめる場所です。ここから矢城ヶ鼻にかけての近畿自然歩道には、歌人・岡垣徹治、登山家・加藤文太郎などの歌碑や顕彰碑があります。

ジオコラム①

砂州の上に発達した町「浜坂・諸寄」

浜坂・諸寄の旧市街地は砂州の上に発達しました。浜坂は岸田川が、諸寄は大栃川が運んだ土砂が波により砂州を作りました。砂州は周辺より高く、水はけがいいので人々はそこに町を作りました。今でも、旧市街の入り口付近には、周辺の低地と砂州を結ぶ坂が数多く残っています。浜坂の地名はこの「坂」に由来するとも言われています。



ジオコラム②

あじわら小径

味原川は、かつて高瀬舟による商品の積み込みが行われていました。味原川沿いには大型の商家が軒を連ね、川から荷物の上げ下ろしをしていました。今でも、味原川に面した住宅には、川に面した入口と川に下りる階段が残っています。



ジオコラム③

漁業の町「浜坂・諸寄」

かつて北前船による海運業が盛んだった諸寄や商業の中心地であった浜坂は、現在漁業と温泉の街となっています。特に、浜坂港は「松葉かに」「ホタルイカ」の漁獲では日本有数の水揚げを誇っています。毎年11月に「浜坂みなとカニ祭り」、4月に「浜坂みなとほたるいか祭り」が行われるなど、港には活気があふれています。また、「かにソムリエの町」として、知名度アップに取り組んでいます。



クイズの答え

- ①砂州の上に発達したから。詳しくは上記ジオコラム①をみてね!
- ②日和山が西からの季節風をさえぎり、諸寄港が風待ち港となったから。